

日刊 動労千葉

79.4.1

No.全国版7

国鉄動力車労働組合
千葉地方本部

千葉市要町二一九(動力車会館)
鉄電二五八〇九(公衆電話)227二〇七

全国の仲間とともに動労の大改革がちとろろ

動労千葉 33回臨時大会は圧倒的にかちとる！

全国の動労組合員の皆さん！ 千葉地本一四〇〇名組合員は三月三〇日、一三時、第三三回臨時大会を開催し、革マル反動分子の中央本部の名をもってする上からの分裂策動を排除攻撃と真向うから対決し、動労運動の変質を正し、路線的正義に裏付けられた階級的組合民主主義の確立と動労大改革をめざし、闘う方向性を確立しました。同時に、千葉地本一四〇〇名組合員の生活と権利を守ることを全く顧慮しない中央本部の対応にデッチ上げとデマを理由に発動された執行権停止、さらには当日(三月三〇日)午前中からの第一〇三回臨時大会で出された地本全執行部と地青三役、津田沼支部長に対する除名、組合員権停止五年および三年という査問委員会答申から、一四〇〇名組合員・家族の全ての利益を守り抜くため新たな組織(国鉄千葉動力車労働組合)略称・動労千葉)の結成をもちとりました。

理不尽極まる「除名」「権利停止」の統制処分を絶対に認めない！

革マル反動分子の全く理不尽な、動労には規約・規則もないかのような、この間のファッショ的組合運営と「きめられたことを守らない千葉地本」なるデマキャンペーンの不当性について、われわれは、ひとつひとつの事実をもって、その実態を動労全組合員の前に暴露してきました。

千葉地本の事実に基づく主張の力に直面した革マル反動分子は、動力車新聞号外などをもって、あらゆる策動を行っています。しかし、革マル反動分子の正体を、第三四回津山全国大会以降、いやといふほど見せつけられている全国の組合員から、全く信用されず、ますます焦った革マル反動分子は、全く理不尽極まりない、整合性の全くない(査問委員会答申を熟読すれば一目瞭然)統制処分を発動してきました。

除名を含むこの統制処分が、規約・規則や組織運営ルールを全く無視したデマとデッチ上げの積みかさねの上に打ち出されたものであることはこの間の経過の中で明白であり、千葉地本一四〇〇名組合員が絶対に認められないことは当然です。

革マル分子の破壊策動を打ち破って
3・30臨時大会は圧倒的にかちとられる

革マル反動分子は第三三回地本臨時大会の開催に当っても、さまざまな破壊策動を行ってきました。全代議員宅へ速達や電話、電報をもって、「臨大は無効であるから参加するな」というペテンとどろい喝を加えてきたのです。しかし、三月一二日に開催された第五三回定期地本委員会での確認に基づき召集されたこの第三三回地本臨時大会が有効なものであることは、動労のいかなる規約・規則

に照らして見ても明らかであります。本部教育センター・鈴木真一を名乗る蘇我支部長への電話が一蹴されたのははじめ、代議員の一人層の怒りを呼び起こしたことは当然です。

第三三回臨時大会は会場を埋めつくす三〇〇名の代議員・傍聴者の圧倒的結集によって大成功のうちにかちとられ、除名を含む統制処分の発動という事態の中で、「国鉄千葉動力車労働組合結成大会」に移行し、関川委員長をはじめとする執行体制のもと一四〇〇名組合員がさらに団結を強め、動労大改革運動に邁進してゆくことが満場の割れるような拍手の中で確認されたのです。

「統制処分」をキツパリと拒否し、
動労の大改革運動を推進しよう！

全国の動労組合員の皆さん！
以上のように、動労千葉地本一四〇〇名組合員は、①、「執行権停止」「除名」をキツパリと拒否し、②、現体制が唯一正統な動労千葉地方本部であることを確認し、当面労働組合としての機能(団交権、規約・協定締結、指令権等)を堅持し一四〇〇名組合員の利益を守り抜くため、中央本部がいまの指導路線を自己批判し、改めるまでの間、新組合を結成し対処するとともに、③、全国の仲間との連帯をさらに強固に、動労大改革本部の戦闘的動労運動の再生へ向けて、さらに奮闘してゆく決意です。



よ！ 粉砕攻撃組織で団結の強固な家族組合員全